

地小出版
方小版

情報誌

アクセス

| | |
|------|----------------------|
| 毎月1回 | 1日発行 |
| 購読料 | 定価 150円 (本体 143円) |
| | 年間 1,500円 (税込み) |
| 振替 | 00120-0-19017 |

発行所 (株)地方・小出版流通センター
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

『伊豆大事典』の刊行と今後の活動

地域活性化の第一歩として

★★★

文・橋本 敬之

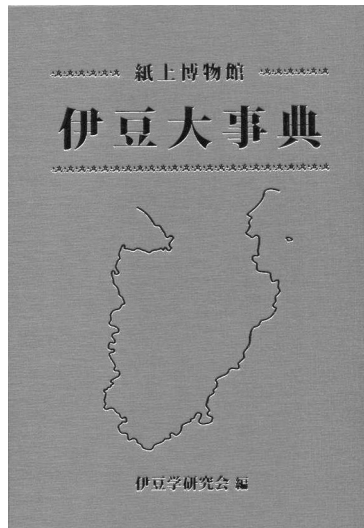
6月下旬、静岡市の羽衣出版より『伊豆大事典』を刊行した。A4判・ハードカバー・1224ページの大冊である。当初は21年秋発刊の予定であったが、編集・校正に難航し、ようやく刊行することができた。

この事典は、平成17年に『伊豆国事典』としてペーパーファイルで作成し、賛同者に配付したものが出発点となっている。このファイルを加除しながら19年に第3版として100部印刷・製本し、賛同者に原価で配付した。最初は、10年かけて10版になったら完成版として出版しようと、任意団体である伊豆学研究会を立ち上げ、主に事典の情報収集・編集に当たってきた。

そのような考えで編集に取り組んでいる時、羽衣出版の社長である松原さんとたまたま再会した。そこで事典の構想を話すと、松原さんは協力するからできるだけ早く出版しましょうと励まされた。この励ましがなければ、果てることのない事典の編集が続いていたものと思われる。その後は事典編集に携わった素人集団(失礼だが)約20人は、形あるものが出来上がるという目標をもって1か月に1回以上集まった。

内容は知って欲しい伊豆の歴史・自然・産業・芸術など約1万項目を収録

名前も『伊豆国事典』ではわかりにくい、との判断から『伊豆大事典』としようということになり、副題を、残念ながら伊豆も含め静岡県には博物館がないこと、伊豆全体が博物館のように名所・旧跡をもっていることから、伊豆全体を博物館とみなして「紙上博物館」にしよう



A4判・ハードカバー・全1冊・約1,200頁・
定価 8,800円 (税込み)

ということに決まった。内容は知って欲しい伊豆の歴史・自然・産業・芸術など約1万項目を収録した。

なお、価格についても1200ページの大冊でありながら、松原さんの「この本は出すことに意義がある。儲けようとは思わない」とのご好意により、税込8,800円という低価格にしてもらった。

地方においては少子高齢化が進み、また、平成の大合併では大都市への集中のみならず、地方においても地方都市への集住化により、地方の中での集中と過疎化が進み、地域の崩壊問題は深刻である。地域に残された地名はおろか文化財も消えゆく運命であり、どのようにして残していくか、真剣に考えなければならない。しかし経済優先の競争社会において、若い世代で地域に残るものは少なく文化を考える余裕もないように思われる。こ

のような現状で、文化を残すにはどのようにしていったらよいのであろうか？文化には歴史的財産ばかりではなく、自然や風景といったものも当然含まれている。

さて、過去には『静岡大百科事典』が刊行され、『角川地名辞書』『静岡県の地名』(平凡社)『静岡県歴史人物事典』などの事典類が刊行された。だが、『静岡大百科事典』はともかくも、これら事典類は総合的なものではなく、それぞれを細かくては項目を調べることができなかった。しかし、この『伊豆大事典』は、調べたい項目は、関連項目を調べることによってより深く知ることができるのである。

クロスレファレンスすることより、内容を深めることができるように配慮

今回発刊した『伊豆大事典』の特徴の一つは、事典の内容をより深く知るための参考資料をできるかぎり紹介したところにある。多くの項目の末尾には「→」で関連項目を紹介した。この「→」をたどりクロスレファレンスすることより、さらに内容を深めることができるように配慮している。

第二の特徴としては、伊豆に関わりの深い人物をできるだけ多く紹介をしたことである。ふるさとに錦を飾る人は少なく、たいていは「地域の人たちの活躍で……」などとといわれることが多い。しかし、名前のない人はいない。この事典では故郷を豊かにしてくれた人物をできる限り多く顕彰した。先人から学ぶとともに、伊豆を元気してくれる若い人々を地域で支え応援することが、地域を盛り上げる重要な要素であると思う。

第三として、地域のよりどころとなっている社寺を多く取り上げたことである。由来やそこにある文化財・石造物など、身近なものに興味を持ってもらえるよう配慮した。

また、伊豆の三大地誌といわれる『豆州志稿』（明治に増訂）『南豆風土誌』『田方郡誌』などに記述されている先人の業績を顕彰するとともに、記載された社寺については、索引となるよう、人物も合わせてそれぞれに引用頁を示した。また、出版社・出版年を記載することで、現在購入できるかどうかの判断もできるようにした。

最後に、この事典の完成はゴールではなく、これを出発点とするため、「NPO

法人伊豆学研究会」を発足させた。事典の編集に集まってくれた任意団体の伊豆学研究会の役割は終わったが、これを出発点として事典を活用した地域作りに取り組む計画である。学問は人を幸福にするためのものである。事典の編集・刊行が終着点ではなく、実践を伴ってこそ事典を作った意味を見出すことができると思っている。

この事典を使えば、自分の地域や自分の興味を持った項目の物語を自分なりに

作ることができ、それによって地域をより深く知ることができるはずである。自分の住む地域を知れば、その地域への愛着が湧き、地域に自信と誇りを持つことができ、このことが地域活性化の第一歩であると考えられる。

この『伊豆大事典』が、伊豆発展のための事典として大いに活用して頂けることを祈念するものである。

(はしもと たかゆき／伊豆学研究会・伊豆大事典刊行委員会代表)

新刊ダイジェスト

※価格は総額（税込）表示です。

『日本一醜い親への手紙 厳選版100通』●Create Media編



“あんたらにひとつだけお願いがある。一秒でも早くこの世から消えてくれ”“アンタが天国なら、私は地獄に行く方がずっとましです”手紙の末尾に込められた心の叫び。本書は虐待被害者たちに「親への手紙」を公募して1997年に出版された同書名本とその続編から100編を選んで再編集された復刻版。現在でも児童虐待のニュースは引きも切らず、97年当時より虐待相談件数は

減るどころか6倍以上に増えているという現実。に編者が立ち上がった。虐待を減らすには、もはや当事者だけの問題ではなく、親子関係を外側から見る視点と想像を絶する家庭が存在する事実を知る必要がある。手紙の内容は壮絶だが、目をそむけずに現実を直視したい。

◆1365円・B6判・258頁・ノンカフェブック
ス・兵庫・2010/7刊・ISBN978-4-9905303-8-9

『パパとママからのラブレター ー生まれてきてくれて、ありがとう』●Create Media編



期待と不安に胸を膨らませて、わが子の誕生を待ちわびるパパとママの物語を伝える34編の手紙。子どもを虐待する親が増え続ける一方で、惜みない愛情を子どもに注ぐ親がいる。本書は『日本一醜い親への手紙』と同時刊行された手紙集。一見相反する2冊だが、人は誰でも無償の愛から生まれてきたという原点に立ち戻り、親自身も「わが子を産んだ時の気持ち」を忘れないでい

という編者の願いが込められている。親子関係がこじれそうな時に、本書で親の気持ちを思い出す……そんな効果もある。手紙に共通して書かれている“生まれてきてくれて、ありがとう”の言葉。この言葉の意味を特に悩める親に噛みしめてもらいたい。

◆1365円・B6判・256頁・ノンカフェブック
ス・兵庫・2010/7刊・ISBN978-4-9905303-9-6

『沖縄1999-2010 戦世・普天間・辺野古 ー豊里友行写真集』●豊里 友行著



最低でも県外と言明してその座を得た総理は、結果として県民を傷つけてしまったと謝罪してあっさりとり、基地は残った。結果ではなく、理解がなかったと告白すべきであった。これもまた一つの琉球処分ではないか。戦世=いくさゆう。沖縄はまだ戦時下にある。その思いを沖縄の人々=ウチナーンチュは今、自分の言葉で語り始めている。戦争

はおろか普天間基地が作られた時代すら知らない若いカメラマンが10年をかけて、沖縄の現実の姿と、ウチナーンチュの哀しみ、怒り、闘い、希望、連帯、愛を、モノトーンの静かな画像に収めた。受け取る者がどう読み解いていくのか、その感性が問われている。

◆840円・四六判・103頁・榕樹書林・沖縄・2010/5刊・ISBN978-4-89805-145-0

『昭和の仕事』●澤宮 優著



ねこぼくや、よなげや、カンジンどん……いずれも平成の現代では見当がつかない昭和の仕事の名称である。人が欲も名誉も求めず、自分の仕事に誇りを持って一日一日を大切に生きた時代「昭和」にあった仕事は今、ほとんど消え去ろうとしている。本書は日本最後の放浪詩人と言われる高木護が復員後に就いた主な仕事を時系列に記し、新たな切り口で昭和を見つめ直すのを皮切りに、

戦後失われた仕事をジャンル別に紹介、さらには竹細工やポン菓子など、今も活躍する昭和の仕事師たちに取材を試みた。貧しくとも人に対する無垢な愛情を持ち続け、仕事と共にあった人間の精神、誇りなどを昭和を通じて伝えたかった著者の思いが溢れる一冊。

◆1995円・A5判・190頁・弦書房・福岡・2010/6刊・ISBN978-4-86329-041-9

売行良好書

期間：2010年7月16日～8月15日

[出荷センター扱い] ※税込み価格

- (1)『ぼくはこうやって詩を書いた』2940円・ナナロク社 (2)『中国情報ハンドブック 2010年版』2940円・蒼蒼社 (3)『イタリアの街角から』2205円・弦書房 (4)『赤トンボのすべて』3780円・トンボ出版 (5)『活字と自活』1680円・本の雑誌社 (6)『作っておくと、便利なおかず』1260円・ベターホーム出版局 (7)『なせば成る!』840円・山形大学出版会 (8)『いい会社をつくりましょう。』1260円・文屋 (9)『陽炎の飛鳥』1785円・アートヴィレッジ (10)『昭和の仕事』1995円・弦書房 (11)『自閉症の子どもたちの生活を支える』1575円・筒井書房 (12)『静岡の山城ベスト50を歩く』1890円・サンライズ出版 (13)『いぬのおまわりさん』1470円・不知火書房



[三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書] ※税込み価格

- (1)『東京かわら版 8月号』420円・東京かわら版 (2)『円周率100万桁表』330円・暗黒通信団 (3)『シルクロード・中央アジア検定公式テキストブック』1365円・日本ウズベキスタン協会 (4)『活字と自活』1680円・本の雑誌社 (5)『富山城探訪』980円・北日本新聞社 (6)『岡山戦国物語』1260円・吉備人出版 (7)『北条氏邦と武蔵藤田氏』2625円・岩田書院 (8)『バスマップの底力』2940円・クラッセ (9)『ちばの湧水めぐり』2100円・崙書房 (10)『靖国の源流』2205円・弦書房

[ジュンク堂書店新宿店—センター扱い図書] ※センター出荷データより/税込み価格

- (1)『恋するK-BOYFRIEND 2010 SUMMER SPECIAL』1890円・エイチ・シー・ピー (2)『漫画批評 Vol. 2』500円・漫画批評 (3)『ストコランド日記 深煎り』1785円・本の雑誌社 (4)『ロシア語文法ハンドブック 改訂版』1260円・アーバンプロ出版センター (5)『photographers' gallery press no. 9』2520円・Ricochet (リコシェ) (6)『東京かわら版 No. 440』420円・東京かわら版 (7)『サムライ・ノングラータ』1890円・フリースタイル (8)『ぼくはこうやって詩を書いた』2940円・ナナロク社 (9)『ぼくは カメレオン』1575円・グランまま社 (10)『絵本 復刻普及版』1575円・溇標

以下ホームページでも各種情報提供を行っております。ご利用ください。
<http://www.bekkoame.ne.jp/~much/>

トピックス — ★★

▼第23回地方出版文化功労賞

昨年ブックインととりに出品した地方出版物の中から、第23回地方出版文化功労賞が選ばれ、発表されています。受賞作品は『鯨取り絵物語』(弦書房刊・中国成生/安永浩著・3150円)で、選考理由は以下の通り。「今、映画『ザ・コープ』の上映や反捕鯨団体の一員の裁判などで捕鯨についての注目が集まっているが、そんな時代にこそ求められる本である。といて際物や寄せ集めの材料を加工した読み物ではない。そもそもそうした『事件』以前に捕鯨の歴史や文化に精通した二人の学芸員によってあらわされた本であり、二つの資料を柱として、そのわかりにくい部分もできるだけ理解しやすいようまとめられた力作である。」さらに奨励賞に『有珠山 火の山とともに』(北海道新聞社刊・岡田弘著・1995円)が選ばれています。「火山研究・観測で活躍する現役の研究者が有珠山噴火観測の第一線での体験を克明につづった作品である。この本は科学・研究と住民の生活を専門の領域で結びつけ、…ほとんどの研究者が書くことの無い著者自身の失敗やたいへんな危機、さらに行政や住民の時々刻々の動きとその結果などもしつかり書き込まれている。」

今年もこの一年に刊行された600冊前後の地方出版物を当センターより出品します。展示会は10月22日から10月27日にかけて、鳥取県立図書館で開催される予定です。お近くの方は是非お立ち寄りください。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。


◎送料、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3~4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。

◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。

★地方・小出版流通センター

FAX: 03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



三省堂書店

BOOKS SANSEIDO

神保町本店 4階
地方出版・小出版物フロア

営業時間 10:00 AM ~ 8:00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

**営業の
ごあんない**

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

